はじめに

『努力・素直・創造』

「夢を語れる生徒を育成する！」

変化の激しい（情報化、グローバル化、AI）、先行き不透明（VUCA、Soceity5.0）な時代を生きる子どもたちにとって、真に必要な力は何か。その力を身に着けるために必要な学びとは何か。また、それを実現するために、学校に求められているものはいったい何かを考えた。

新学習指導要領にある「社会に開か開かれた教育課程」「資質能力の三つの柱」「カリキュラムマネージメント」「主体的・対話的で深い学びの授業改善」を適切に実施し、令和の日本型学校教育「個別最適な学びと協働的な学び」を実現するために、「何を」「いつまでに」「どのように」取組まなければならないのか。

まず、「自走する教職員集団」をめざして学校組織の改革を行った。人権教育と支援教育を基盤としたキャリア教育を学校全体で推進すべく、学級・学年・異学年集団における人間関係づくりを土台に、総合・道徳・特活を幹として、9教科の枝葉が連動し、総合的・系統的に「学び」の実現を図っていく。

「夢を語れる生徒を育成する！」をスローガンに、自己調整力（情報活用能力、言語能力、課題発見課題解決力）を高めるべく、全ての教育活動において、生徒は「あきらめない粘り強さ」や「失敗を恐れず挑戦する勇気」など見えない力（非認知能力）を自覚して鍛えるともに、教師はその見えな力（非認知能力）を意識して全ての指導にあたる。

「夢」は頑張る原動力である。「ワクワク感」は目標達成に立ちはだかる様々な困難を乗り越えるための元気の源である。学校は、社会に出るための準備段階にある子どもたちにとって、『自己決定』や『自己実現』の経験ができる貴重な場所であり、我々大人（教師・保護者・地域）はその機会を保障しなければならない。「子ども家庭庁」の創設や「子ども基本法」の制定の意味はそこにあるものと考える。

子どもたちは夢に向かって、学校という場で、失敗を繰り返しながら「自己決定」や「自己実現」を体感し、互いに絆を深め、成長する。子どもたちの自立に向けて、我々教職員一同は、保護者地域とともに、子どもたちの「居場所づくり」に全力で取組む所存である。

枚方市立第四中学校

校長　鴨田　慎司

令和5年度　学校経営方針

1. 校訓・スローガン

校訓　『努力・素直・創造』

「夢を語れる生徒を育成する！」

2. 学校教育目標

「学びあい、つながりあい、幸せな人生に向けて挑戦し続ける生徒の育成」

〇互いに学びあい、共に成長していく力(学力＆非認知能力)

〇互いに認めあい、共に生きていく力(人間関係力)

〇互いに思いを伝えあい、共に未来を想像していく力(探究力)

3. めざす学校像

「学力＆非認知能力」の育成　⇒

・課題解決に主体的に取り組む学校(言語能力などを自覚させ、意識的に育成、ガマンも能力)

「人間関係力」の育成　⇒

・人(人権)を大切にできる学校(互いに注意ができ、失敗を許せる風土の向上、オリアイをつける)

「探究力」の育成　⇒

・誇れる地域のオンリーワンの学校(地域課題などホンモノの学び、自ら問いを立てる学び)

4. めざす生徒像

「自分で考え、判断し、行動することができる生徒」

5. めざす教師像

・人生を楽しむことのできる教師(人として魅力ある教師)

・仕事を楽しむことのできる教師(プロとして自覚ある教師)

・プライベートを充実できる教師(労務管理「タイムマネージメント」のできる教師)

・生徒の成長を喜びにできる教師(生徒の失敗を引き出す安心感を与えることのできる教師)

・他人の失敗を許すことのできる教師(人間関係づくりが上手な教師)

・生徒を信じることのできる教師(謙虚で余裕のある教師)

・誰にでも自分から挨拶のできる教師(元気を与えられる教師)

・人との約束を守ることのできる教師(人として信頼される教師)

・時間を守ることのできる教師(自分に厳しい教師)

・TPO を弁えた身だしなみのある教師(組織人としての教師)